
O55-03 退院後支援からみえた課題 —退院後訪問でフォローアップした一症例—

二見 信次

周南リハビリテーション病院

【はじめに】先行研究では回りハ病棟から自宅退院した患者は、環境変化により ADL が低下しやすいという報告を散見する。当院では一昨年から退院患者をフォローアップするために追跡調査を行っている。その結果と退院後訪問で対処できた症例について報告する。【追跡調査の方法と結果】平成 27 年 10 月～28 年 9 月に自宅へ退院した 35 名に対し 1 ヶ月後に退院後訪問、3 ヶ月後に電話調査を実施。FIM 合計点と運動項目合計点は退院時よりも 1 か月後、3 か月後の方が高いという結果になった。また退院後の歩行能力、利用している介護保険サービス、福祉用具の使用状況に変化を認めた。【考察】回りハ病棟でのリハビリと退院後の生活設定に問題があることが示唆された。【症例紹介】50 歳代女性。3 人暮らしで専業主婦。急性大動脈瘤解離に対し S 病院で大動脈置換術を施行。12 病日に左上肢の運動麻痺と痺れが出現。MRI にて多発性脳梗塞と診断。22 病日に当院回りハ病棟へ入院。【入院中の経過】入院時、左上肢に運動麻痺、疼痛、痺れを認めたが、更衣と整容以外のセルフケアは自立。当院では物理療法、上肢機能練習、家事練習を実施。65 病日に家屋調査実施。家事動作自立し 77 病日に自宅へ退院。【退院後の経過】99 病日に自宅訪問実施。疼痛、痺れが再発し家事は実施困難であった。106 病日より訪問リハ開始。徐々に症状が軽減し家事練習を開始。環境調整も行い家事が自立し 276 病日に訪問リハ終了。